

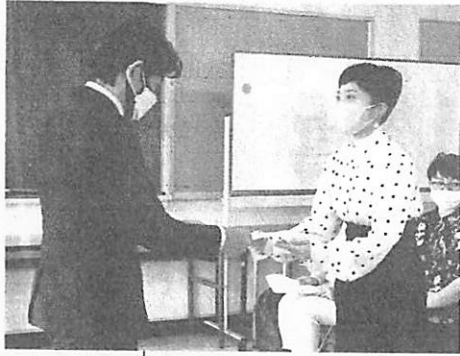
ジェンダー平等・多様性を認めたい

誰もが過ごしやすい学校に！

2月25日のNHKニュースで、成人年齢が18歳に引き下げられることを踏まえ岐阜市の県立加納高校は、生徒に服装について主体的に考えてもらうおうと、制服のほかにも通学できるような校則を改定したと報道していました。全国の中学校、高校で校則の見直しや制服の自由化が進んでいます。南知多町でも、せつかく新しくなる中学校では、ぜひ子どもたちの立場に立った改革を進めてもらいたいと思います。

「制服自由に」続く模索

「帰属意識を持てる」「経済的」などの理由で、当たり前とされてきた制服。理不尽な校則への批判の高まりや多様性の尊重を背景に、各地で見直す動きが出ている。苦痛を訴える生徒の声をきっかけに保護者が教育委員会に要望したり、生徒と教員が議論を重ねたりと「誰もが過ごしやすい学校」の模索が続く。



福岡県糸島市教育委員会の担当者(左)に要望書を手渡す糸島スマイル校則プロジェクトメンバーのフミヨさん(右)と福岡県糸島市。

入学前から、学ランを着たくなかった。福岡県糸島市の中学二年の男子生徒(右)は、兄のお下がりに袖を通したが、真っ黒で威圧的に感じた。洗濯できないのも嫌だった。友達に制服を着る自由は尊重したいが「みんな同じ」

生徒の声受け各地で

を押すつけられたくない。中学と市教委に私服登校を申し入れた。学校側は許可しただったが、後になり制服を着ていないことと指導を受けたという。約一カ月、不登校になった。文部科学省によると、学校での服装に法律上の定めはなく、ルール制定の権限は校長にあるとされる。男子生徒の訴えを受け、保護者をつくる市民グループ「糸島スマイル校則プロジェクト」は昨年12月、服装の自由は憲法上保障された人権だとして、着用を義務付けない「標準服」の運用を市教委に要望。「私服でも安心して通

岐阜北高 アンケート実施「対話重ねる」

える環境をつくって」と求めた。メンバーのフミヨさんによると夏の制服やシャツ、ジャージ、シャツなどには数万〜十万円以上かかる。「到底、経済的とは言えない」とも指摘した。市教委は今年一月に示した回答で、「通学服は標準服である」とした。標準服以外の着用は、個別に保護者や生徒と協議して決めるとしている。岐阜県立岐阜北高校では校長の諮問を受け、生徒や教員をつくる制服等検討委員会ワーキンググループ(WG)で議論。昨秋に私服でも登校できる期間を設け、生徒にアンケートを行った結果「服装を自由化(制服、私服の選択可)」を求める声が多く、理由としては、快適さや多様性を望む回答が多かった。委員会は年末の最終報告

会で、制服を標準服として捉え「標準服と私服の選択制」を打ち出した。WGは、各生徒がいずれかを選択していった結果、少数になった側が同調圧力に苦しまないことも重視。「差別を受けない環境にするのが多数派の責任」だとした。近く校長に最終答申する。

メンバーの同校二年今井宏晃さん(右)は「さまざま意見があり難しいが、対話を重ね納得できる環境になれば」と話す。校則の問題に詳しい後藤富和弁護士は「標準服は本来、学校が勧める服装の一つにすぎない。服装規定に関する生徒の声が上がった時こそ、教員や保護者も、自己決定権や民主主義について一緒に学ぶチャンスと捉えてほしい」としている。

3月議会日程

- 4日 本会議初日
- 議案・説明・質疑
- 7日 本会議2日目
- 一般質問

*一般質問の時間は一人60分あります。内田議員は、R5年度に仮統合される中学校の制服・校則問題を中心に質問し、太陽光発電の条例化も求めます。内田議員は3番目に質問します。

- 9日 文教厚生委員会
 - 11日 総務建設委員会
 - 17日 本会議最終日
- 採決・閉会

新型コロナウイルスまん延防止措置中ということで、また本会議場の傍聴はできないことになりました。内田議員は、他の市町で実施しているように、間隔を空けて人数制限をして、本会議場での傍聴ができるように、全員協議会を求めましたが、否決されました。

別室で、音声と画像で傍聴ができますので、ぜひお出かけください。

